

10万年危険な
核のゴミ
捨て場は何処に

（未来を紡ぐ糸車）

チャルカ

小泉純一郎さんも登場！
原発の電気が
未来に残すものは何？



チャルカとは、インドの手紡ぎ糸車のことです。
インド独立の父、ガンジーはイギリスの支配から自立するために、
自国で生産した綿花を自分たちで紡ぎ、その糸を手織りにした布(カディ)を作ろうと提唱しました。
チャルカは独立運動のシンボルです。

Good travels
at a snail's pace.



自分の足で立って 生きるということ

『福島 六ヶ所 未来への伝言』
島田恵 監督 第2作

映画「チャルカ ～未来を紡ぐ糸車～」への想い

東日本大震災は私たちにとって本当に大事なものは何なのかを問いかけ、福島原発事故は経済優先社会が行き着いた惨状を見せつけました。それでもなお、人類の環境破壊は止まりません。その究極は何10万年以上も毒性が消えないという放射性廃棄物＝核のゴミを産み出してしまったことでしょうか。それは遠い先の子孫たちの住処までも奪っていることにほかなりません。人類が直面しているこの課題から、私たちが学ぶべきことはいったい何なのでしょう。

本作品には、高レベル放射性廃棄物の地層処分研究施設のある北海道幌延町の隣町で酪農を営む久世薫嗣(しげつぐ)さん一家の生き方を軸に、もう一つの研究施設がある岐阜県東濃地域、そして世界で初めて地下処分施設が建設中のフィンランド、原子力大国フランスの処分計画地ジュール、さらには新しいエネルギーや生き方が織り込まれています。私たち一人一人が未来をどう紡いでいくのか…。どの世代の方にも観ていただきたいと思います。

私たちは自分たちの手で新しい未来を紡ぐことができます。すでにその道を歩き始めている人たちは大勢います。この映画があなたの生き方を紡ぐチャルカとなりますように。



けい

監督 島田 恵

1959年東京生まれ。写真家・ドキュメンタリー映画監督。1986年のチェルノブイリ原発事故後、核燃問題で揺れる六ヶ所村を初めて訪ね衝撃を受け撮影を開始する。



1990年～2002年まで同村に在住。写真集「六ヶ所村 核燃基地のある村と人々」(高文研)で第7回平和・協同ジャーナリスト基金賞を受賞。同名の全国縦断写真展を行う。3.11後に制作した映画「福島 六ヶ所 未来への伝言」は「2014年キネマ旬報文化映画部門」第7位となる。

小出裕章 (元京都大学原子炉実験所助教)

核のゴミは無毒化できない。その毒性が、もともとのウラン鉱石の毒性まで低下するには、10万年～100万年の歳月が必要となる。原子力利用は、未来永劫と言える未来の子どもたちに対する犯罪である。

武藤類子 (福島原発告訴団団長)

人類は未だ解決できない核のゴミを、なぜ出し続けようとするのだろう。福島に生きる者としても、放射性廃棄物の問題は深刻だ。3.11後、福島と六ヶ所村を撮影した島田監督の、核のゴミ問題を正面からテーマとした新作に期待したい。

監督・撮影：島田 恵 編集：井上秀明 音楽：川原一紗 デザイン：はらだゆうこ

出演：久世薫嗣さん 小泉純一郎さん フィンランドオンカロの人々 フランスジュール村の人々 ほか

制作・配給：六ヶ所みらい映画プロジェクト 2016年/日本/カラー/H D/90分

六ヶ所みらい映画プロジェクト <http://rokkashomirai.com/> 島田恵公式サイト <http://shimadakei.geo.jp/>

3月11日(日) 映画と監督のお話

横須賀市生涯学習センター5階 大学習室

(ウェルシティ市民プラザ) 京急逸見駅・JR横須賀駅から10分
京急バス停「汀橋」から1分

10時30分～、14時～ 開場は30分前。

映画90分と監督のお話30分。

前売:1000円 (当日1200円)、学生・障がい者:無料

前売券販売:品川文化堂(横須賀市大滝町 046-823-1848)

◆託児:ウェルシティ館内の託児所ご利用の場合、費用は当会が負担します。

◆主催:「チャルカ」横須賀上映実行委員会

問合せ・電話予約:090-4835-6681(沢園)

◆後援:横須賀市・横須賀市教育委員会